

# 茅野市八ヶ岳通信

総合博物館

コタツでテレビを見てばかりいないで。鳥やけものたちは元気に活動しています。

夏の間、シベリアなど北の地方で生活していたハクチョウやカモの仲間は、10月を過ぎる頃から日本へ渡ってきて、各地の湖沼や川、海岸等で冬を過ごします。

諏訪湖の横河川河口には、餌付けによってコハクチョウや数百羽のカモたちが集まっています。上川など大きな川にもマガモ、コガモ、カルガモ等が見られます。アシや水草のある水辺を好みます。

カモは体が大きく、種類の区別もつけやすいので、誰でも観察が楽しめます。7~10倍の双眼鏡があると便利です。



上：マガモ

オスは緑色に光る頭と黄色い口ばしで目立つが、メスは全体に茶色っぽく地味な色。

下：カルガモ

カモにはめずらしくオス・メス同じ色。ほとんどがわたりをせず1年中日本にいる。

冬はカモたちの結婚シーズンです。カモの種類の多くは、冬の間はオスがメスより美しい羽色をしています。この装いでメスの気を引き、夫婦になろうという作戦のようです。そして春先、また北の地方へ帰ると、メスは産卵します。カモは年ごとに相手を変えますが、ハクチョウの夫婦は死ぬまで別れないそうです。

## ◀ ウサギの足跡

このウサギたちは、どちらへ向かって走ったのでしょうか? 一大きい方が後足で、ウサギはとび箱をとぶようなかっこで走ります。

◀ カラスが舞い降りた跡

雪の降った後の山林には、いろいろなけものたちの足跡が見つかります。足跡を調べれば、そこに何がすんでいるかがわかります。

カラスが畠に残した跡。着地するときの羽や足の様子が目に浮かびます。庭やあぜ道などで、枯れ草の種子が雪の上に落ちていると、貴重な食糧をせっせとついぱんだ小鳥達の足跡も見つかるでしょう。

見に行こう!



冬こそ外へ、

## 尖石遺跡整備委員会が発足

尖石遺跡は明治時代にすでに学会に報告され、戦前には史跡保存地に、昭和27年には国の特別史跡に指定され、地権者の皆さんや地元の人々の熱意と理解によって、現在まで保存されてきました。

近年の開発ブームにより、尖石遺跡をはるかにしのぐ規模の遺跡の発掘も数多くみられるものの、そのほとんどは調査終了後、消滅してしまったか、大きな建造物の下になってしまっています。その中にあって、尖石遺跡は史跡指定を受けたことにより、遺跡面積の約3分の1が調査終了後に埋め戻して保存され、残り3分の2は未発掘の状態で保存されています。

この尖石遺跡をさらに史跡整備するため、茅野市は昭和63年から平成元年までの3年間をかけて指定用地のほぼ90%に当たる38,000m<sup>2</sup>を買い上げ、市有地としました。

その後、平成2年から3カ年計画で、遺跡の広がりと性格をみるために2回の発掘調査が行われ来年も継続予定であることは、前号の博物館だよりもふれました。これと平行して「尖石遺跡整備委員会」が発足し、具体的な整備計画の立案を始めました。

委員には、考古学はもちろんですが、深鉢その他に建築、植物、造園といった史跡整備に関わるさまざまな分野の専門家の方々をお願いし、総合的に検討していくことになっています。

幸い遺跡の隣接地に「青少年自然の森」もでき、約50,000m<sup>2</sup>の市有地が確保されました。遺跡周辺も含めて、5,000年前の縄文中期の人々がどのような環境で生活していたかを考えられるような遺跡整備、縄文のふるさとづくりをと願っています。

## 考古館収蔵の資料を 各地で展示

本年度も尖石考古館所蔵の八ヶ岳山麓縄文文化を物語るような土器など23点を福島県立博物館、山梨県立考古博物館、川崎市民ミュージアム等各地の特別展に貸出しました。

また考古館所蔵資料の写真も40回にわたって種々の刊行物に掲載されました。



縄文土器製作教室 野焼きをへて完成した作品

## 縄文土器の不思議に魅せられて…

考古館で行う縄文土器教室が始まって12年、縄文の人たちが作った実物の土器を目の前において、縄文人との心のふれあいを楽しんで来ました。

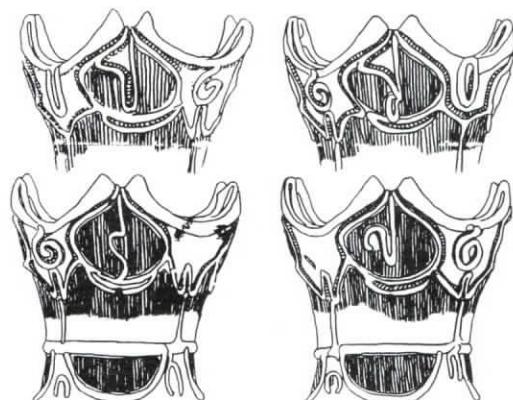
今年も参加者は30余人、すばらしい催しになりました。

縄文土器の片面を見て、裏側も同じ文様になっているかと考えると違っています。むしろ、全く同じ文様が対称に付けられている方が少ないくらいです。縄文人の自由奔放さと言ってしまえばそれまでですが、それでいて統一のとれたすばらしい造形になっています。



左の写真は、八ヶ岳山麓が棚畠遺跡 高さ37cm 最も栄えた縄文中期後半の土器です。縁が4つに分かれ、そこにつけてある文様は下の図のようにそれぞれ違っています。

縄文時代の人々は、一体何を考えて土器を作ったのでしょうか。すばらしい飾りや文様は、何のためにつけたのでしょうか。何か意味のある文様なのか、それとも変化をつけるためだったのでしょうか。



四面で異っている周囲の文様

～静かな感動の漂いに充ちていた～

## 企画展「宮 芳平 回顧展」

平成3年10月



宮芳平氏は、大正12年清水多嘉示氏の後任として諏訪高女に着任し、昭和33年諏訪二葉高校を退職するまでの間、平野高女（現、岡谷東高）諏訪蚕糸（現、岡谷工業高）の美術教師を長年兼務もしました。

生徒達に自然と人の語らう美を教え、人生の悦びを語り、ロダン、レンブラント、ミレー等を話す口マンに満ちた美術教師でした。

生徒達も、ひたむきに純粹な美を求め描き続ける姿に教えられ、誠の心に触れ、尊敬と亲しみの念を寄せていました。

この強い絆を基盤に、3校の同窓会にこの企画展の協賛を願い、組織あげてのご支援、ご協力をいただきました。

絵画、遺品を出品くださったご遺族をはじめ、出展いただいた方々、各新聞社の特別企画の連載と、地域あげてこの企画を盛り上げていただきました。まさに、諏訪の地に根づいた企画展でした。

企画展では、苦学時代のデッサン。初めて展覧会に入選した「カーテンに」。故郷の海に沈む美しい太陽に思う「落日の嘆美」。生徒達の顔のデッサンの数々。諏訪の山、湖、空を愛し描いた数々。妻の病、生活苦の中にも描き続けた、優しさあふれる人物画。退職後、知人や教え子の好意で建てられたアトリエで、人間の苦悩と悦びを色彩鮮やかに描いた、「太陽シリーズ」。エルサレムで取材した「聖地巡礼シリーズ」等々、70点の絵画とその他遺品をご観覧いただき

ました。

絵の具を塗り重ねて求め得た鮮やかな豊かな色彩に温もりがにじみ出し、心に響く展覧会であったと思います。

期間中大変多くの方が来館され、特に各校の同窓会の方々には、互いに誘いあって、県外からも多くおいでいただきました。2回、3回と来られる方、その都度友人を連れてみえた方も何人かありました。それぞれに思いのある絵に当時を偲んで語り合い、涙を流す方もしきりでした。皆さん学校生活の中で、また私生活の中で師を慕った思い出話を、情景を交えていろいろ話されていました。

画家として、教育者として宮芳平氏の残した心が、来館者の心の中にうかがえた企画展でした。また、地域の人々が交流や旧交を深めた場であったように思います。

### 作品紹介



「秋映」（日本画 150号）

第18回日本国際美術展入選

制作 1990年

岩波昭彦

作者の岩波昭彦氏は25歳。多摩美術大学にて加山又造氏から指導を受け、1990年長野県展で知事賞受賞、1991年院展で入選されている茅野市玉川小泉出身の新進日本画家です。秋の黄金色の草花を題材としたこの作品は今年度当館で開催した父子展を記念して寄贈されたものです。

爽やかな感性で描かれたこの作品は、草の香り、風の音を想起させる1点となっています。

## 寒さを生かす「寒天」づくり

諏訪地方の冬の寒さを表現するのに「しみる」という言葉があります。全てのものがカチカチに凍るような寒気、痛いほど寒い状態を「しみる」といいます。

「しみる」ほどの寒さと乾燥した空気をうまく利用した諏訪地方の農家の冬の副業に、寒天、氷豆腐、氷餅の3つがあります。ともに茅野市の自慢の特産品です。

特に寒天は、海藻を原料とし、海から遠い山間の地・諏訪地方で製造しているのは興味深いことです。

寒天工場はきれいな水と広い屋外の冷凍兼乾燥場が必要です。寒天工場から立ちのぼる白い湯気、まわりに広がる白く光る乾燥場（田んぼ）はふるさとの冬の風物詩です。



▲切った生天を並べる作業（茅野市金沢木舟）

寒天の製造工程はつぎのようです。原藻のテンゲサ、オゴノリ、オニクサなど数種を配合し、水につけて柔らかくして洗浄機にかけ、砂や貝殻などを除き、小量の酸を加えて煮ます。これをろ過した寒天の液を「もろぶた」という流し箱にいれて固めます。これが「ところてん（生天）」です。これを細長く切り分けて屋外へ並べ、凍結と解凍を繰り返します。冬の夜の寒気で凍らせ、昼間の日差しで解凍させると、約2週間で乾燥して寒天になります。

諏訪の寒天は角寒天が主力で、その「のりあし」が強いことが特徴です。よくかたまり歯ごたえが強い点で、他の産地より優れています。これは諏訪の冬の気候が寒天の製造に最適であることにほかなりません。

### こんなことも行いました

### —平成3年度事業報告—

〈考〉: 尖石考古館、〈博〉: 八ヶ岳総合博物館、〈美〉: 美術館

- 5/18 ミュージアムコンサート 〈博〉  
6/7~7/19（全7回） 水彩画講座 〈美〉  
6/9 夏の自然観察会（八千穂高原他） 〈博〉  
美術館めぐり（セゾン現代美術館他） 〈美〉  
6/9・16 繩文土器製作教室（土器製作） 〈考〉  
7/9~16 第33回茅野市美術展 〈美〉  
博物館活用指定学級（全9回） 〈博〉  
7/18 豊平小4学年 「連鳳作り」  
8/28 永明小5年2組 「火をおこす道具を作ろう」  
8/30 湖東小3学年 「火をおこす道具を作ろう」  
9/11 泉野小3・4学年 「連鳳作り」  
9/25 豊平小3学年 「竹細工を作ろう—  
べんり孫の手」  
9/26 泉野小3・4学年 「竹細工を作ろう—  
紙玉でっぽう・竹とんぼ」  
11/14 豊平小6学年 「小さいものの達のくらし」  
11/15 永明小5年2組 「小さいものの達のくらし」  
1/22 湖東小3学年 「テンゲサからところてんを作ろう」  
7/20~8/6 豊科の洋画家展Ⅱ 小堀四郎展 〈美〉  
7/25~9/1 行田哲夫写真展 〈博〉  
9/2~10 移動美術館（東部中学校会場） 〈美〉  
9/11~20 移動美術館（北部中学校会場） 〈美〉

- 10/6 秋の自然観察会（守屋山の化石採集他） 〈博〉  
10/12~29 宮芳平回顧展 〈美〉  
10/19~11/10 民俗資料収蔵品展  
「温もりを伝える暮らしの小物」 〈博〉  
10/20 繩文土器製作教室（野焼き） 〈考〉  
10/23~11/14（全8回） 古文書解説講座 〈博〉  
11/3~20 第11回茅野市小中学生作品展・  
絵画の部 〈美〉  
11/23~12/15 発明工夫展 〈博〉  
12/7・8 冬の野鳥観察会（諏訪湖の水鳥） 〈博〉  
1/24~2/9 第11回茅野市小中学生作品展・  
書写の部 〈美〉  
2/2 映画鑑賞会「おもひでぽろぽろ」 〈博〉

茅野市の博物館だより 八ヶ岳通信 No.6

発行年月日 平成4年2月17日  
編集・発行 茅野市八ヶ岳総合博物館  
〒391-02 茅野市豊平6983番地  
TEL. (0266) 73-0300  
茅野市尖石考古館  
〒391-02 茅野市豊平4734-132  
TEL. (0266) 76-2270  
茅野市美術館  
〒391 茅野市玉川500番地  
TEL. (0266) 73-5440